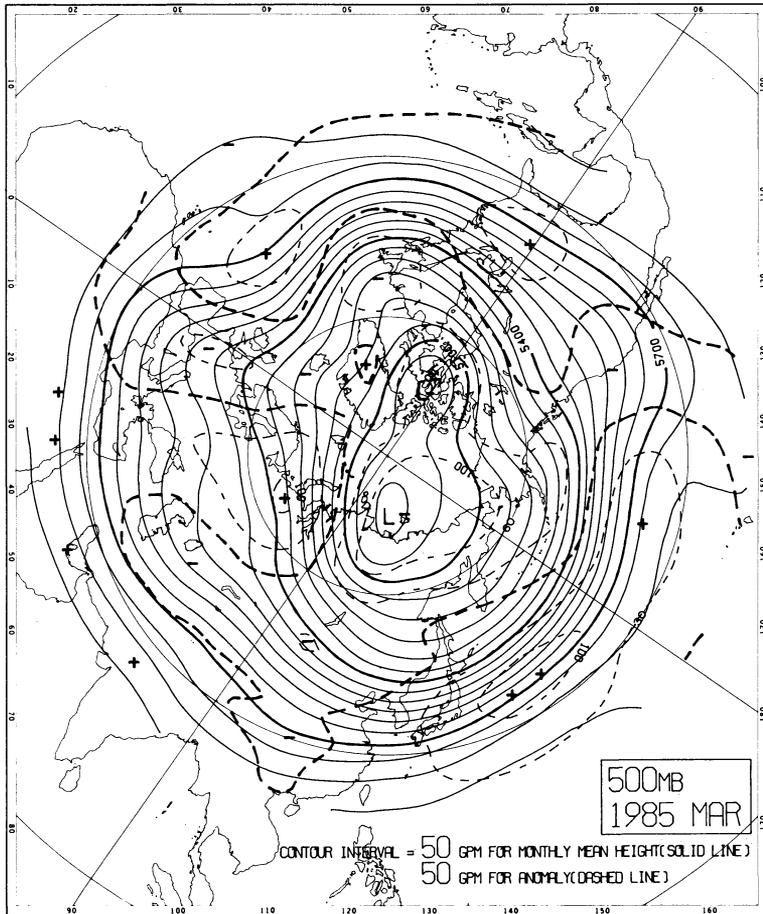


NEWS 月平均500mb 天気図. 1985年 3月.

(破線は平年からの偏差. 単位m)



太平洋で強い東西流型循環, 天気はぐずつく

今月の特徴は、東シベリアで極うずが強く、太平洋高気圧が北偏したため、太平洋域で強い東西流循環となったことである。太平洋域の30°N帯・40°N帯の正偏差と極東域の70°N~80°N帯の負偏差は、いずれも戦後における最大(小)値を記録し、極東域の東西指数*は戦後第1位の高指数であった。Wallace・Gutzler(1981)は、冬季の月平均500mb高度の1点相関図から、東シベリアと西太平洋で逆位相となる傾向があることを見出し、WP**パターンと名づけたが、今月のパターンは、それを約10度北偏させたものと良く似ている。

日本の上空で偏西風が強まり、前線帯が強められたことと、中国東部がトラフになり、太平洋高気圧の縁辺をまわって湿った南西風が吹き込んだため、日本の南

部では曇りや雨のぐずついた日が多かった。東京の日照時間は平年比41%と観測開始以来の最少となり、熊本では月降水量の最多記録を更新した(平年比2.3倍)。

月の前半には、ノバヤゼムリヤ付近にブロッキング高気圧が存在したが、月の後半には解消した。この影響でソ連のウクライナ地方はかなりの低温に見舞われたが、積雪量が多かったため、作物への影響は少なかった。

アメリカはカリブ海の高気圧が北偏し、正偏差に覆われて、温暖な日が多く、作物の生育も順調であった。

*40°N高度と60°N高度の差の90°E~170°Eの平均値。平年値を0とし、それより大きい(小さい)時、高(低)指数と言う。

** West Pacific (長期予報課 山田真吾)